

令和7年度

中心市街地まちづくり通信 Vol. 11

社会実験

「HaReNiWa あそぶっく」
開催レポート（第2報）

開催日時 2025年11月14日（金）～16日（日）

開催場所 フジ竹原店駐車場 図書館周辺エリア

発行 2026年3月5日

社会実験「HaReNiWa あそぶっく」調査結果を報告します！

本市では、令和5年度から「中心市街地まちづくりワークショップ」を開催しており、複合施設の使い方などを市民の皆様と議論してきました。

ワークショップを踏まえ、社会実験イベント「HaReNiWa あそぶっく」を、令和7年11月14日～16日にフジ竹原店駐車場の図書館周辺エリアで開催しました。本号では、社会実験中に実施した調査の結果を報告します。



【広場×体験】本のポップを作成すると、べっこう飴作りや焼きマシュマロ体験ができる。

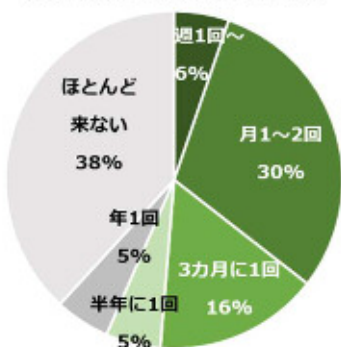
調査①：来場者アンケート（回答者76人）

竹原書院図書館に来る頻度を聞いたところ、「半年に1回」以下の頻度の人約半数でした。普段図書館を訪れない層が数多く来場していることから、今回のイベントをきっかけに、新規層を図書館前へ誘引することができたと言えます。

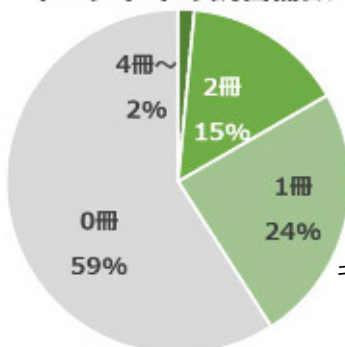
また、図書館やあそぶっく会場で本を1冊以上読んだ人は41%おり、多様な企画をきっかけに、本と触れ合う空間を提供できました。一方で、運営に携わった市民の方々からは、本棚の設えや読書空間の確保等、空間づくりに課題があったという意見が出ています。

良かったコンテンツとして、「べっこう飴・焼きマシュマロ」と「くつろぎスペース」など、自ら取り組む体験や、リラックスして過ごせる空間が高く評価されており、複合施設においても同様の活動ができる場づくりが必要と考えられます。また、あそぶっくの印象については、「にぎやか」「新鮮」「居心地がいい」という好意的な反応が大多数でした。

図書館を訪れる頻度



イベント中の読書冊数



良かったコンテンツ（複数回答、上位のみ掲載）

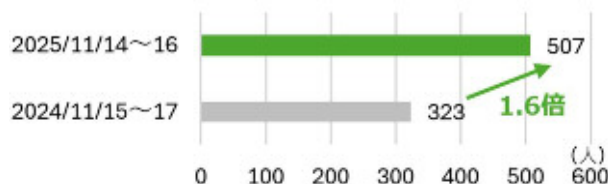


調査②：図書館・フジへの波及効果

竹原書院図書館の来館者数や貸出人数等を計測し、社会実験が図書館利用に与えた影響を調査しました。結果、前年同曜日比で来館者数が約1.6倍に増えた一方、貸出人数・冊数は横ばいでした。引き続き、本に触れる機会をより良い形で提供できるよう検討していきます。

また、フジ竹原店食品館の買物客数についても、前年同曜日比で8.5%増加しました。また、イベントついでに買物だけでなく、フジで購入したものを七輪で温めて食べるなど、普段とは異なる消費の喚起につながりました。以上のように、公共施設と親和性の高い民間収益施設が隣接することで、相乗効果が期待できることが確認されました。

図書館来館者数(前年同曜日比、3日間合計)



調査③：セッション風景写真

普段の図書館では見られない風景を写真に撮り、図書館と広場のセッション(出会い)の可能性を見ました。その結果、約40枚のセッション風景を抽出することができました。



【遊び×世代間交流】モルックの遊び方をスタッフに聞くことで、会話の良いきっかけに。



【広場×音楽×本】歌詞探し企画が本を読むきっかけになり、広場と認識しているから座り込む活動が生まれた。

調査まとめ

今回は、図書館と広場の親和性の調査を目的とした社会実験でしたが、広場での遊びや音楽の演奏など様々な活動が行われることで、来訪者にとって居心地のいい空間を実現できました。一方で、本に触れる仕掛けについて、来館者数増加などの成果はあったものの、空間づくりなどに改善の余地はありました。

また、社会実験を通じて、公共空間の利活用について、市民主体で考える体制の構築が進んだことも大きな成果です。今後も社会実験により、多くの人に関わる体制を整えていきます。

詳細な調査結果は、右記竹原市HPにて公表しています。



HaReNiWa
Instagram



これまでの
「中心市街地まちづくり通信」&
調査結果報告
(竹原市HP)

【問合せ】竹原市役所 企画部 企画政策課 公共施設再整備担当（伊藤、中井、川崎）
TEL：0846-22-1568 E-Mail：koukyou@city.takehara.lg.jp